

## 旧永和荘を避難場所に



加藤敏彦 議員

### 質問

23年6月議会会で下村議員が、「地震による液状化で日光川の堤防などが陥没し、浸水するおそれがある」と質問し、経済建設部長は、「指摘のとおり」と答弁している。また、「佐屋地区は99%以上が海抜以下で、一番低いところは永和小学校東の道路がマインス2.6mだった。市の災害対策は、家屋の倒壊以外に浸水の対応も必要だ」という質問に対して、総務部長が「永和地区の今の避難所は相当低い。当然家屋以外に浸水の対応を講じていく必要がある」と答弁している。

現在の避難所が適正かどうかを示すと聞いている。それに沿って市も検討していかなければならない。

### その他の質問

・巡回バスの運行見直しについて、何を重点に改定を行ったのか

### 質問

蟹江町は、蟹江高校の跡地に、高さ3〜4mの高台「希望の丘」を整備することを発表した。

海抜マイナスの地域において、避難場所として高台を整備することは、住民にとって心強い施策である。

永和地区は、市役所より低い海抜マイナス2m以下である。高台の避難場所を求める声が強い。

市は蟹江町のように水害避難の丘を整備してはどうか。

### 総務部長

蟹江町はまちづくりという視点の中で取り組んでいる「希望の丘」は、蟹江高校の跡地の利用の一部として、河川洪水を想定した高台の整備であると聞いている。

市にとって高台が、今すぐ整備すべき施設とは、考えにくい。

### 市長

永和荘は、平成20年に、市としては購入はしないと県に返事をした。

### 市長

20年に結論を出しているが、東日本大震災を踏まえて、スーパー伊勢湾台風にも浸水にも対応する避難場所を検討すべきでは。

20年と現在とは、社会情勢も変わってきていることは理解している。また、スーパー伊勢湾台風と東南海の地震とは、別の対応になってくる。県としても、この海部・津島一带をモデル地区として、

